

校長先生の部屋だより

哲学ルームだより



この「哲学ルーム」は、生徒、先生の区別なく、共に学校スローガンである「人間を学ぶ」空間です。

今回もいつもの1年生の男子が3人やってきました。前回は「命の重さ」は人にとってと蟻にとってとは異なっており、相対的であること。また人間は命よりも大切にしているものがあるそうだと話をしました。

—B 君は自分の子が脳死状態になったとして、本人が臓器移植の意志を示していれば、それを認める？

B：はい。

—でもまだ心臓は動いているし、あったかいよ。

B：人間は他人の役に立って始めて人と言えると思います。

C：強盗などの犯罪者の場合は？その人は人間じゃないの？

B：そういう人でも悔い改めて更正することはあると思う。そういう可能性も含めて人間です。

A：僕は生きようとする意志を持つのが人間だと思います。

C：じゃあ、自殺しようとする人は人間じゃないの？でも、ある町の街灯を青にしたら住民の心が落ち着いて自殺者が減ったという報告もあるよ。



—そういう可能性も含めて生きようとする意志を持ったものが人間だということかな。

A：やっぱり人間から生まれたものが人間です。

—それだと前に戻っちゃうね。スターウォーズに出て来る言葉をしゃべる宇宙人はどうなるの。

C：チューバッカも。

—そうだね。チューバッカは人間じゃないから食べちゃってもいいのかな。

C：チューバッカは友達だから。

—チューバッカのほかにロボットの友達もいたよね。あれには人格を認めないのかな。

A：あれはロボットだからダメです。

—手が無くなって義手を付けても人間だね。人工心臓を使ったら？

C：人間です。

—記憶力をよくするために脳の一部を機械にしたら？あるいは頭を良くするために脳の一部を機械にしたら？

A：記憶はいいと思うんですが、考えるとか意志の部分はどうも。

—やっぱり思考とか意志に人格を認める？時間が来ました。今日はここまで。